令和7年 年頭のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は、日本各地で大きな災害が発生した年でありました。

昨年の元日に能登半島を襲ったマグニチュード7・6の大地震は、最大震度7を記録し、多くの建物が倒壊するなどの被害が発生しました。

石川、富山、新潟の三県の住家被害は、約14万棟に上り、特に被害が大きかった石川県では、約9万3000棟が損壊し、うち6069棟が全壊となっております。

また、人的被害は1810人で、関連死を含め462人の方々が亡くなられております。

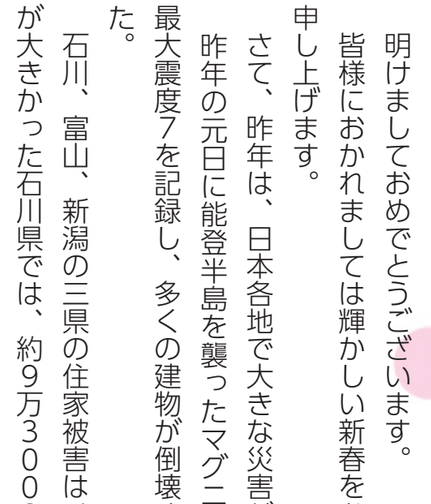
このような大地震は、他人事ではありません。大石田町にも「阪神淡路大震災」と地震発生確率が同じような活断層「山形盆地断層帯」が存在しています。

将来発生しうる大地震に対し、様々な面での備えを進めていかなければなりません。

地震同様、水害に対する備えも重要です。昨年の7月25日から26日にかけて、山形県北部を中心に記録的な大雨となり、最上地域などでは甚大な被害が発生しました。

以前とは雨の降り方が変わり、数年に一度と言われるような大雨が毎年のように降るようになっています。

このような状況の中、町民の皆様が安心して暮らせるよう、国、県、町が連携して最上川の堤防整備事業を進めておりますが、スムーズに事業を進めるためには、地域の皆様のご理解とご協力が不可欠でありますので、丁寧に事業を進めてまいる所存です。



昨年は就任一年目で、全てが学びの日々でした。対話を重視し、職員とのミーティングの時間を作り、全職員と対話しました。また町民の皆様の声を聴くために「座談会」を各地区で開催し、町内全域を回りました。町政全般にわたり、様々なご意見をいただきましたので、今後の町政に活かしてまいります。

「大人が自信を持って次世代にタスキをつなげられる町」にしていくことが私の使命だと考えております。そのためには、「住み続けたい」、「住んでみたい」と思ってもらえるよう、町民の皆様と一緒になって築き上げていく所存でありますので、皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。

最後になりますが、大石田町は1月1日で新町発足70年を迎えました。町の歴史や文化を振り返るとともに、未来を見据え、展望を描く重要な年になると思います。

また、今年の干支は「乙巳」だそうです。「乙」は木を象徴し、成長や発展を意味します。「巳」は蛇を表し、知恵や再生の象徴とされています。この組み合わせは、特に「成長」と「再生」を強調する年とされ、過去の経験を糧に、劇的な変化や新たな挑戦が訪れる年とされております。特にビジネスや個人の成長において新たなスタートを切ることが期待される重要な年になると考えられています。

この記念すべき年が皆様にとって素晴らしい年になりますようお祈り申し上げ、簡単ではありますが、年頭のあいさつといたします。

令和7年1月　　大石田町長　庄　司　　中